

# 教育目的、目標・方針

## 理学療法士学科

理学療法士は、身体に障がいのある者に対して基本的動作能力の回復や心身の機能の維持向上を図ってきた。また、近年では、障がいに対する「予防」も理学療法士の重要な業務として定着している。

医療の機能分化が進むにつれ、理学療法士には、多様な障がいに取り組むチームの一員として、適切かつ円滑に業務を行うことが期待されている。急性期では、運動器だけでなく、心臓・呼吸などの内部障がいに対する高度医療における早期リハビリテーションに対応することが求められる。回復期では、自宅復帰に向けた日常生活活動の改善および自立指導ができることが求められる。また維持期（生活期）では、廃用症候群や転倒の予防、誤嚥性肺炎の予防や社会参加への促進などを目的に生活指導ができることが求められている。

## 目的

理学療法を必要とする人に対して的確な評価・治療・支援ができる基本的能力を修得し、地域で生活する人の健康・医療・福祉の担い手として、他の職種と協働して活躍できる質の高い理学療法士を育成する。

## 目標

1. 感性豊かな人間性、高い教養と倫理観を身につけ、生活者としての人間を理解する基礎能力を修得する
2. 科学的な根拠に基づいて理学療法を実践できる基本的な知識と技術を身につけ、理学療法士に求められる課題を解決する基礎能力を修得する
3. 変化する社会情勢に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的、協働的に理学療法士の役割を果たすために行動できる能力を修得する
4. 専門職として自己の能力を評価し、自己成長していける基盤を修得する
5. 将来、幅広い社会的活動や国際的な視野に立って活動できる基礎的能力を修得する

## 方針

### 「ディプロマポリシー」

- 1) 理学療法士としての問題解決能力を有していること
- 2) チーム医療の一員として理学療法士の役割やその責任を果たすことができること
- 3) 地域課題に柔軟に対応でき、社会・地域において理学療法を実践できる能力を有していること

### 「カリキュラムポリシー」

- 1) グループワークやディスカッションなどを通して能動的に学び、新たな問題の発見・解決できる能力を育成する
- 2) 演習や現場での実習を通して、多職種連携に必要なコミュニケーション力や協調性など、理学療法士に必要な実践力を育成する
- 3) 研究活動を通し、論理的思考を育成する

## 「アドミッションポリシー」

- 1) 障がいのある人々や家族の思いに共感でき、その人々の人生を支援したいという思いをもてる人
- 2) 周囲への気配り、目配り、心配りができる人
- 3) 身体の動作に興味があり、理学療法士への強い思いがある人
- 4) 社会や地域に貢献する意欲と情熱のある人

## 取得資格

理学療法士国家試験受験資格、4年生大学編入学資格、スチューデントトレーナー中級、介護予防トレーナー

## 就職分野

病院、診療所、リハビリテーション等専門病院、スポーツ関連施設、介護老人保健施設、社会福祉施設、在宅訪問、行政機関、など

## 付与される称号

専門士（医療専門課程）